

岐阜県経済の現状のポイント（平成 26 年 10 月分）

【景況感】

景気回復に足踏み感が見られる。

【製造業】生産、売上は輸送用機械関連を中心に好調を維持

○製造業全体では輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送用機械関連を中心に受注や生産は好調を維持している。

【地場産業】一部の業種を除いて厳しい状況が続いている

○消費増税前の駆け込みで好調だった木工も受注や生産が落ち着きつつあり、他の業種については依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。

【個人消費】消費の回復状況に頭打ちの感が見られる

○売上、客数ともに、前年と同等の水準まで回復している小売店も見受けられるが、回復状況に頭打ちの感が見られる。衣料品は、10月中旬まで天候が良く、低調であった。

【観光】インバウンドは好調を維持

○施設によってバラつきはあるものの、宿泊客数は、飛騨地域は前年よりやや減少、それ以外の地域はやや前年を上回った。インバウンドは、前年比でほぼ横ばい。

【雇用】業種全般において人手不足が発生している

○製造業のみならず幅広い業種において、人材の確保に努める企業が多数見受けられるが、求職者は職種や条件を吟味する傾向にあり、人手不足が発生している。

【設備投資】投資実績は増加傾向も、投資意欲には一服感が見られる

○投資実績は増加傾向にあるが、設備投資の目的のうち、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資は減少し、「補修・更新」が増加。設備投資意欲は2期連続で減少した。

【資金繰り】資金繰りは改善傾向

○新規融資実績は減少傾向にあるが、借入難易度は緩やかながらも着実に改善している。